

令和6年度全国剣道指導者研修会（東日本ブロック・長野県）



令和6年度全国剣道指導者研修会・東日本ブロック（主催＝日本武道館、全日本剣道連盟、全日本学校剣道連盟、後援＝スポーツ庁、長野県教育委員会、長野県剣道連盟、主管＝長野県学校剣道連盟）は、10月11～13日の日程で、長野県佐久市の長野県立武道館で、講師10名、参加者56名を得て実施された。

本研修会は、令和3年度から全面实施された中学校学習指導要領を踏まえ、全国の中学校に剣道が導入され、安全で効果的な指導展開がされるよう全国東西の2ブロックにおいて開催されるものである（西日本ブロックは、10月25～27日に高知県高知市にて実施）。

■1日目（10月11日）

開講式では、^{はたはるひこ}端春彦日本武道館振興部副参事振興課長の挨拶に続いて、^{あじろただひろ}網代忠弘全日本剣道連盟会長が挨拶し、「令和6年において日本剣道の重要な行事として、7月にイタリア・ミラノで実施された世界剣道選手権大会がありました。その世界剣道選手権大会以上に重要な行事が、この全国剣道指導者研修会です。この研修会は、中学校武道必修化に伴い、授業の中で日本の心を体現した伝統的な武道である剣道を学び、人間形成をしていくという重要な目的を持った事業です。本研修会で学んでいただき、剣道を通した人間教育、人づくりに邁進してい

ただきたいと願っています」と述べた。

開講式後、^{いわきつかさ}岩脇司講師が「中学校保健体育における剣道学習の考え方」の講義を行い、中学校剣道授業の実施状況、剣道授業とその他の保健体育科授業の愛好度の比較、教員側からみた剣道授業の課題等を示した。また、「剣道学習における主体的・対話的で深い学びの展開例」として、制限を加えた試合の行い方を説明し、茨城県と愛媛県の中学校で行った剣道授業の映像を紹介した。最後に、評価の手順について解説し、講義を終えた。

^{なまきりふみのり}百鬼史訓講師の「安全指導」の講義では、過去に剣道で発生した重大事故の例を示し、その事故のほとんどが、竹刀と剣道具によって発生していることを示した。用具の管理義務は教員側にあるため、その安全・保守点検を怠らないよう呼びかけた。続いて、^{かるこめみつよ}軽米満世講師の「衛生管理」の講義では、新型コロナウイルスの他、近年蔓延している感染症を示し、面マスクの着用など、授業の前・中・後それぞれの感染症予防に留意した授業方法を説明した。あわせて熱中症対策についても、説明した。

■2日目（10月12日）

軽米講師が「剣道の歴史と特性」として、武器から道具へ発展した経緯、剣道の文化性と対人性、^{そくいん}側隠の情などについて説明した後、実技に入った。山神^{じょう}^{やまがみ}真一講師と山田博子講師が「剣道授業における体ほぐしの運動」として、じゃんけんゲーム、手のひら

攻防、足の裏攻防、手拭いゲーム、パートナーを探せ、新聞紙切り、新聞球打ち等を実践した。新聞球打ちの中では、「その場で打つ→踏み込んで打つ→踏み込んで打った後に体さばき」と、段階を踏んで実践した。



次に、軽米講師が「剣道に必要な動きづくり」の中で、「1（イチ）と2（ニ）、3（サン）と4（シ）、5（ゴー!）」と発声しながら、リズムよく踏み込みの動作を実践した。続いて、「ハー!」と大きな発声をする体験を行った後、手刀での送り足、体さばき、手刀での攻防を実践した。実践の中で、残心の行い方（目付等）、なぜ残心を示すのか等を説明した。

神崎浩かんざきひろし講師・岩脇司いわきつかさ講師が担当した「剣道具のない授業例」では、惻隱の情から繋がる礼の意味、3つの礼（場に対して、先生に対して、相互）を説明した後、木刀を用いた礼法（立礼、正座、座礼）をそれぞれ実践した。木刀による授業例では、木刀がない時の教材の工夫（イタクシナイ等）を紹介した後、木刀の扱い方、木刀を持った状態での作法（立礼、握り方、中段の構え）から、上下素振り、斜め素振りを実践した。実践の中で、送り足、歩み足も、徐々に取り入れていった。続いて受け方（防御）や、間合い（近い間合い、一足一刀の間合い、遠い間合い）について解説した後、「木刀による剣道基本技稽古法」の基本1～5を実践した。その後、藤田弘美ふじたひろみ講師が「主体的・対話的で深い学び」を目指した「木刀による剣道基本技稽古法のグループ学習」を行い、グループごとに課題を見つけ、話し合い、実践し、最後はグループごとに発表を行った。

午後は、花澤博夫はなざわひろお講師と神崎講師が「竹刀による授業例」を行い、基本となる技の段階的指導での打ち方（その場で打つ→送り足で打つ→踏み込み足で打つ）、面・小手・胴のそれぞれの打たせ方を実践し

た。

続いて、佐藤義則さとうよしのり講師が、「音楽を活用した授業例」として、アメリカ民謡の「ネリーブライ」、AKB 48の「365日の紙飛行機」の曲に合わせ、先ほど練習した基本となる技の打ち方・打たせ方を実践した。はじめにペアで行い、次にグループ学習に切り替えた。グループ学習では、音楽に合わせた打ち方・打たせ方のバリエーションをグループごとに考え、最後に発表を行った。発表したグループの中で、「切り返しの導入になるように」として、切り返しの動作を音楽に合わせて実践したグループがあった。

続いて、藤田講師が「剣道具の着装と結束」として、剣道具の名称や扱い方を解説し、岩脇講師・山神講師が基本となる技の段階的指導の発展を実施した後、山田講師が5人組で実践する「ごく簡易な試合1」の実施方法を説明した。まずは有効打突（気剣体一致）の説明、審判の役割や判定方法について説明した後、グループごとに実践した。

次に、佐藤講師・山神講師が応じ技（面抜き胴）と、これまで実践してきた技を組み合わせた約束練習（面→鏝ぜり合い→引き胴→面抜き胴→残心）を行った後、「ごく簡易な試合2（応じ技による判定試合）」をグループごとに実践した。2日目の実技も大詰めを迎え、藤田講師・軽米講師が、「条件を付けた攻防での自由練習」を行った。条件は、攻める側は積極的に技を出せる、防ぐ側は技を打たせないで受けるのみだが、胴のみ打てるとした。最後に「ごく簡易な試合3（制限を加えた試合）」をグループごとに実践した。最後に岩脇講師が「剣道具の結束」を解説し、2日目の研修を終えた。

■3日目（10月13日）

花澤講師の「指導者のインテグリティ」の講義では、現代において指導者が持ち合わせるべき品位・品格について説明した。続いて藤田講師が研究協議を行い、協議の柱（テーマ）を明確にした上でグループごとに話し合い、発表していった。

最後に網代講師が講話を行い、指導者に向けたメッセージを述べ、質疑応答の後、研修が終了した。

閉講式では、端振興課長による修了証の授与の後、軽米講師が講評、網代会長が主催者挨拶を述べ、3日間の日程を終了した。